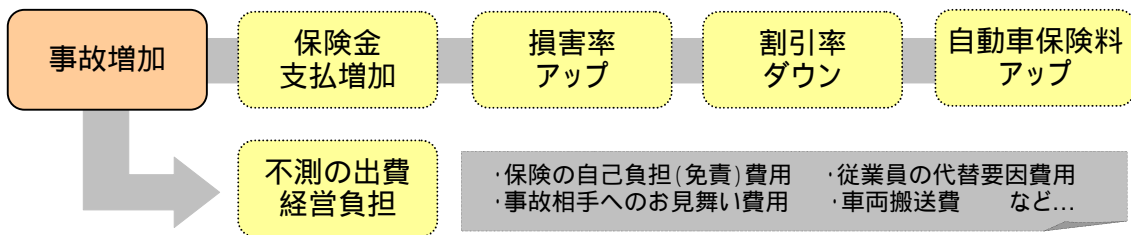


車両事故とコストの関係

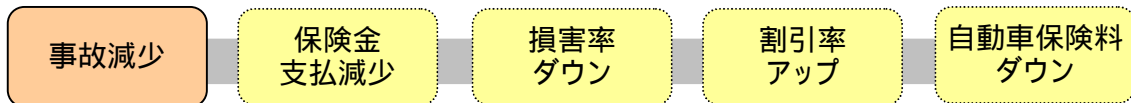
無事故運転の推奨が、コスト削減の第一歩です！

自動車保険（フリート契約）の割引率は、料率審査期間の損害率によって算定されます。そのため、事故による保険金支払いが多ければ割引率は低下し保険料は上がり、逆に保険金支払が少なければ割引率が良くなり保険料は下がります。

事故が増加するとコスト増の原因になります。



事故を減らすことでコスト削減につながります！



< 参考 > 損害率と自動車保険の関係

算出条件：対人無制限、対物無制限、人身障害5,000万円、車両保険65万円（自己負担額0円）

- ・自家用普通乗用車（料率クラス3-3-3-3）：50台
- ・優良割引：20% ・保険料：501万円（1台あたり100,170円）

損害率	次回優良割引率	次回保険料	差額
20%	34%	407万円	94万円
40%	24%	474万円	27万円
60%	16%	528万円	+27万円

損害率が一定以上になると、必ず保険料が引き上げられる。利益率5%の会社が1,000万円年間保険料がアップすると、その1,000万円を賄うには2億円（1,000万円÷5%）を増収しなければならず、結局損失の上乗せとなり、利益が圧縮されることとなります。